

osCommerce の手動インストールの方法

■ osCommerce のダウンロード

osCommerce のサポート・ドキュメントサイトから「[oscommerce-2.2ms1j-R8.tar.gz](http://www.bitscope.co.jp/tep/download.html#osc2.2j)」をダウンロードします。下記の URL にアクセスしてください。

<http://www.bitscope.co.jp/tep/download.html#osc2.2j>

中ほどにある、「osCommerce 2.2 MS1 日本語版」の項目にある「[oscommerce-2.2ms1j-R8.tar.gz](http://www.bitscope.co.jp/tep/download.html#osc2.2j)」をクリックし、ダウンロードします。

osCommerce ダウンロード

新たに osCommerce を試すのなら、下の「[osCommerce 2.2 MS1 日本語版](#)」をダウンロードしてください。

■ osCommerce 2.2 MS1 日本語版

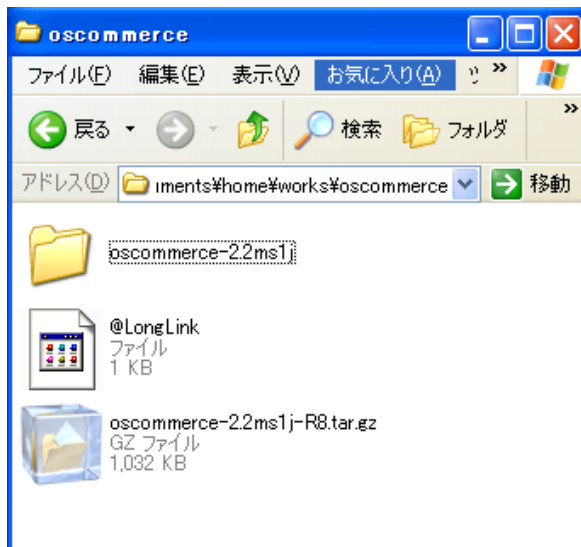
osCommerce 2.2 MS1 (2003年2月19日版) をベースにして日本語化を行ったパッケージです。標準の osCommerce 2.2 に日本語メッセージや日本の習慣への対応をふくんだパッケージです。データベース内の情報やソースコードにも修正がおよんでいます。[[リリースメモ](#) / [変更履歴](#)]

このバージョンでショップを構築するのをお勧めします。

日付	ファイル名	サイズ
2007-02-18	oscommerce-2.2ms1j-R8.tar.gz	1056253 bytes

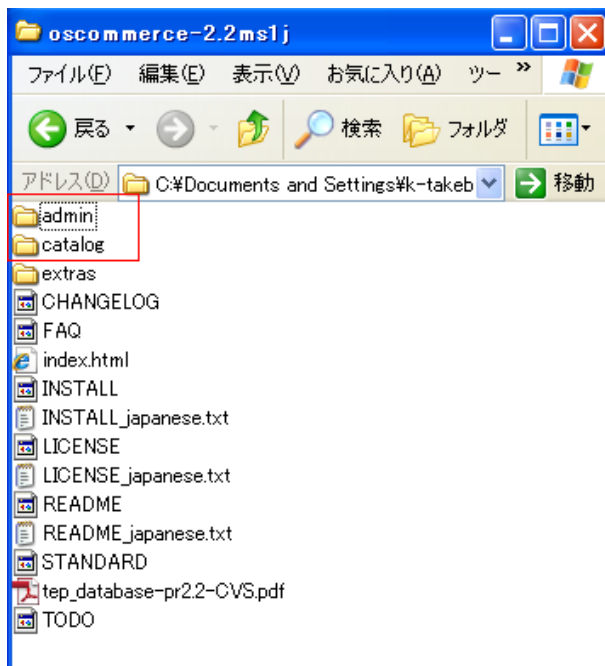
■ osCommerce 2.2 日本語版

ダウンロードした「oscommerce-2.2ms1j-R8.tar.gz」を解凍（展開）します。



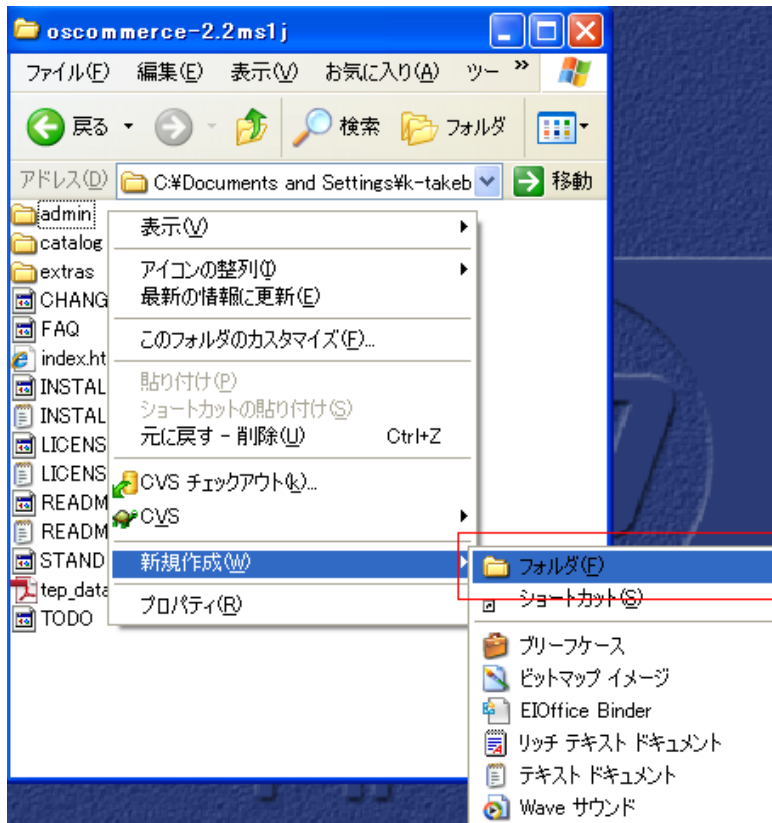
解凍（展開）してできた「oscommerce-2.2ms1j」フォルダを表示します。

「admin」、「catalog」フォルダがあることを確認してください。インストールに必要なフォルダはこの2つとなります。

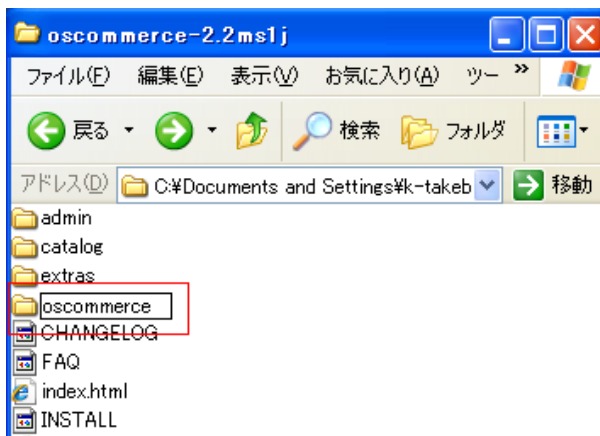


「oscommerce」フォルダを作成します。

エクスプローラーの何も表示されていないところで右クリックしてメニューを表示し、「新規作成」から「フォルダ」をクリックしてください。

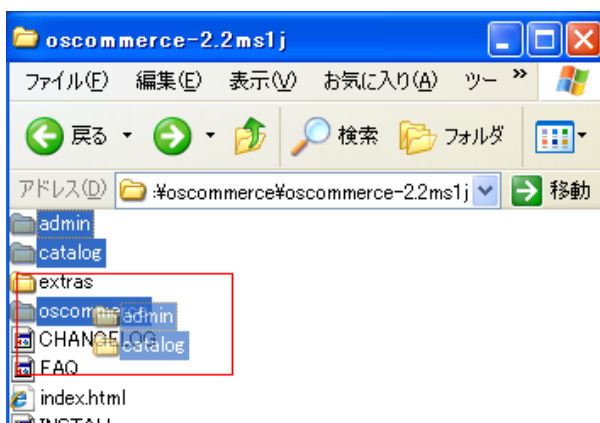


新しくできたフォルダ名を「oscommerce」に変更してください。



「oscommerce」フォルダに「admin」、「catalog」フォルダを移動します。

「admin」、「catalog」を選択し、「oscommerce」フォルダへドラッグ&ドロップしてフォルダを移動させてください。



■ osCommerce のアップロード

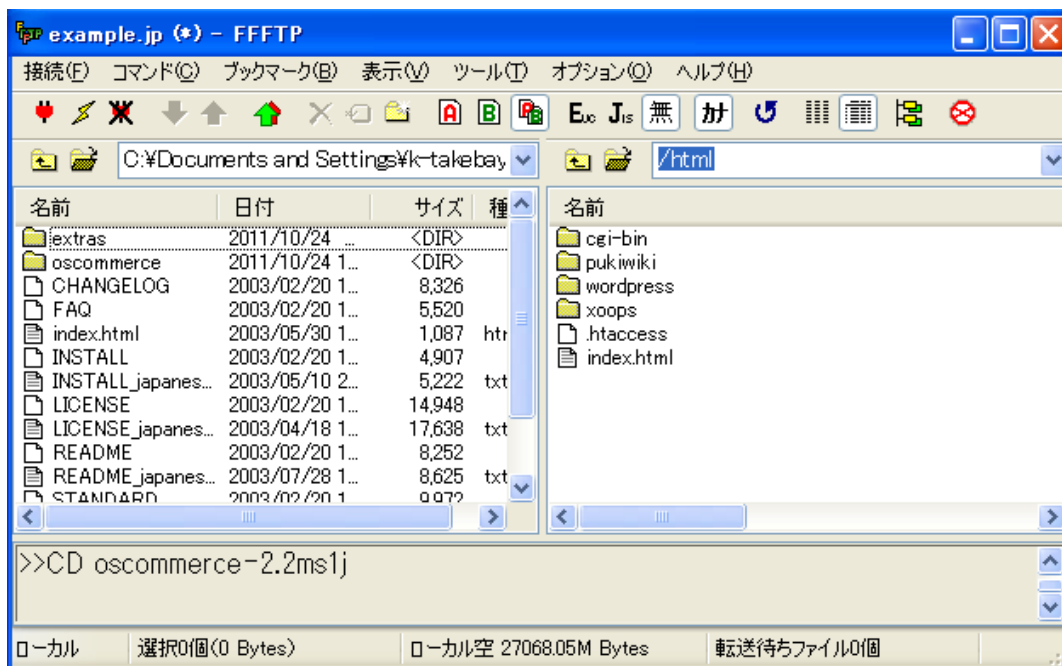
FTP ソフトでサーバーに接続します。

「接続」をクリックしてください。



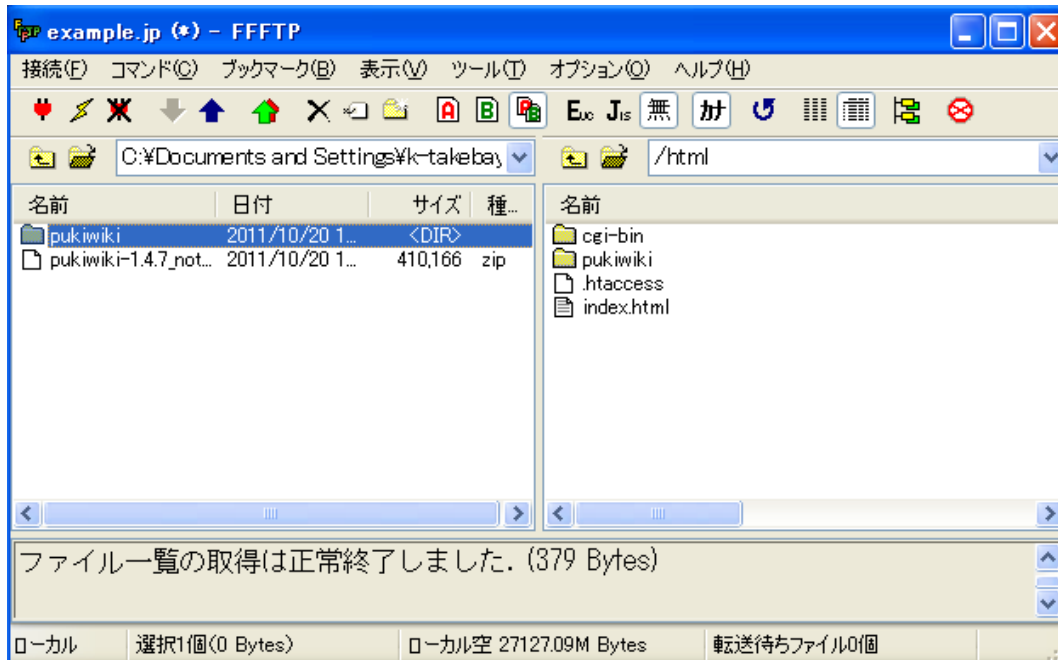
※FTP の設定については「CMS の事前設定」を参照ください。

FTP ソフトの左部に解凍（展開）してできた「oscommerce-2.2ms1j」フォルダを表示し、右部に「/html」ディレクトリを表示します。

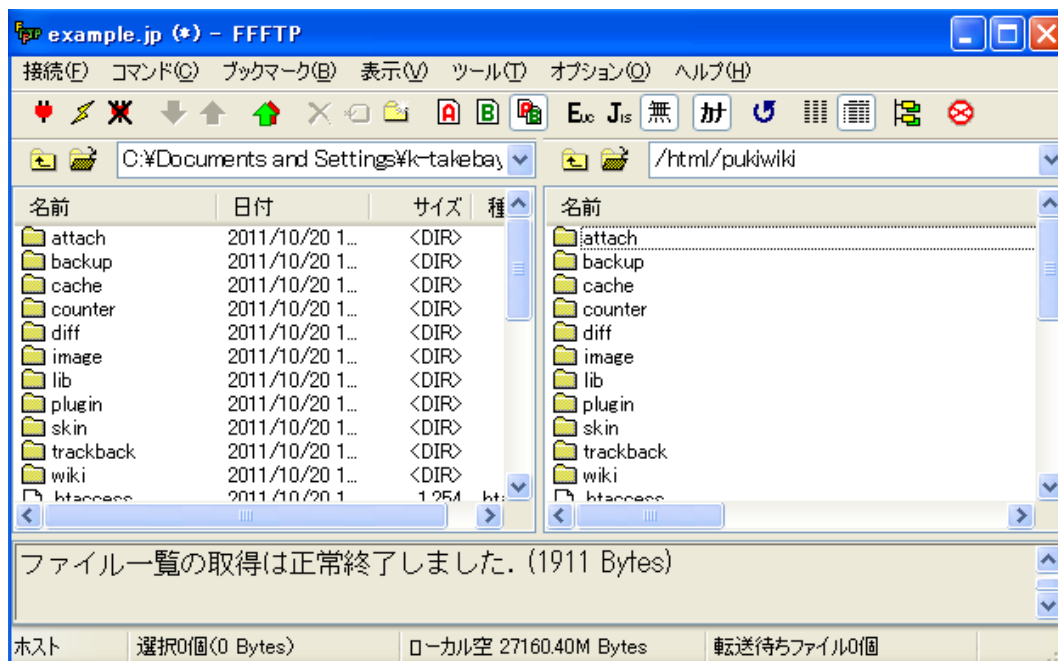


osCommerce フォルダをサーバーにアップロードします。

※1000 以上のファイルをアップロードしますので時間が長くなる場合があります。



アップロードが完了したら、左部に「osCommerce」フォルダ、右部に「osCommerce」ディレクトリを表示しておいてください。



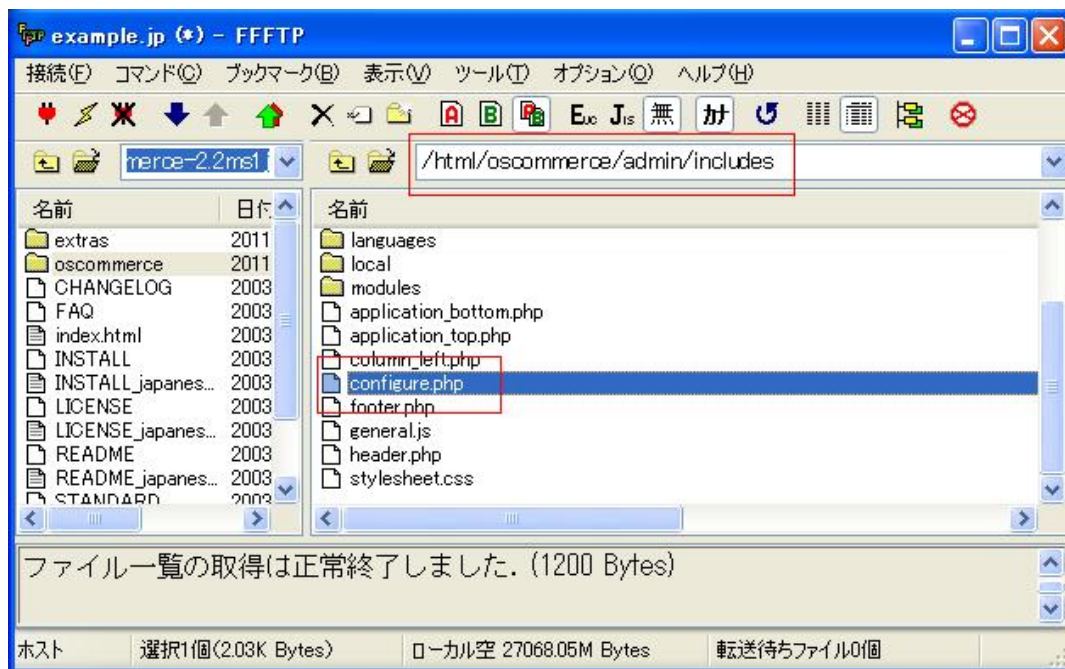
■ パーミッションの変更

必要なファイルのパーミッションを変更します。

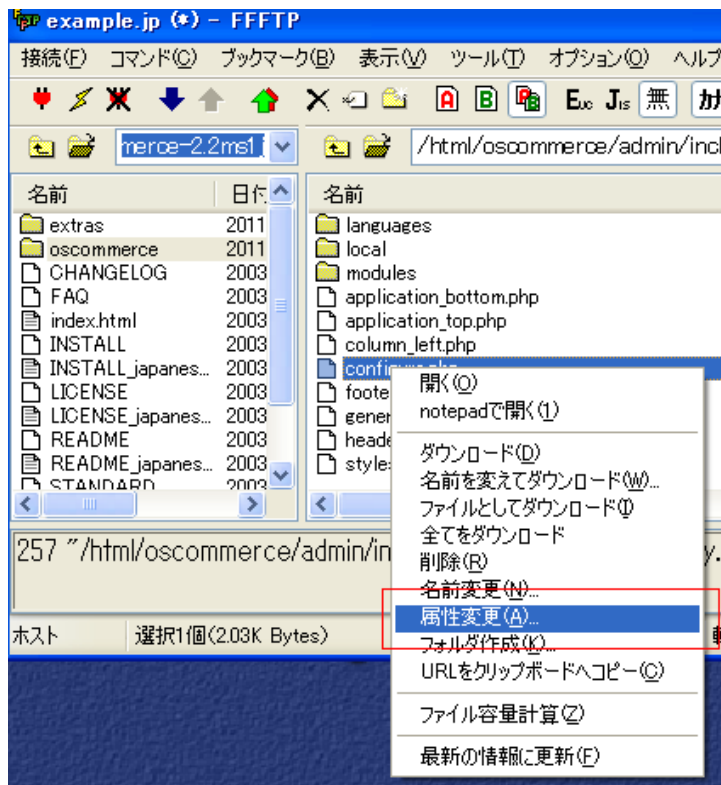
変更を行うファイルは「admin」と「catalog」の「includes」ディレクトリにある「configure.php」です。パーミッションを「706」にしましょう。

- ・ `./admin`
 - `includes`
 - `(706)configure.php`
- ・ `./catalog`
 - `includes`
 - `(706)configure.php`

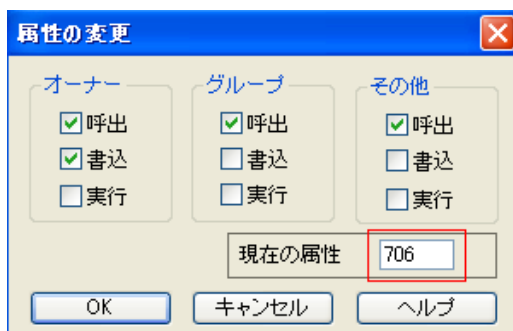
「admin」の「includes」ディレクトリにある「configure.php」を選択します。



「configure.php」を右クリックし、「属性変更」をクリックします。



「現在の属性」を「706」に変更します。



同じようにして、「catalog」の「includes」フォルダにある「configure.php」も現在の属性を「706」に変更しておいてください。

■ 表示の確認・インストール

パーミッションの変更が完了したらさっそく、ブラウザでアクセスしてインストールウィザードを開きます。

「[http://あなたのURL\(ドメイン名\)/oscommerce/catalog/install/](http://あなたのURL(ドメイン名)/oscommerce/catalog/install/)」にアクセスしてください。

下図のような画面が表示されます。

「New Install」をクリックしてください。

osCommerce

osC : // Welcome サポートサイト

ナビゲーション

- ◎ [ようこそ](#)
- ◎ [インストール](#)
- ◎ [アップグレード](#)

osCommerce

オープンソース・Eコマース・ソリューション

ようこそ osCommerce へ!

osCommerceは、国際的なコミュニティで開発が進められているオープンソースのEコマース・ソリューションです。このパッケージを導入することによって、オンライン・ショップのセットアップ、運用、メンテナンスが最小限の労力と最小のコストで実現できます

osCommerceは、*強力なウェブ・スクリプト言語 PHP、安定したウェブ・サーバ Apache、高速なデータ・ベース・サーバ MySQL* などのオープンソース・ソリューションを組み合わせることにより、自由でオープンな開発プラットフォームを提供しています。

osCommerceは、Linux、Solaris、BSD、Microsoft Windows などの PHP と MySQL をサポートしている環境であれば、PHP3 か PHP4 が動作するウェブ・サーバに、特別の条件や制限なしにインストールすることができます。
(osCommerce 日本語版は、PHPのバージョン 4.1.2 以降の国際化機能を有効にした環境で動作します。PHP3 環境では動作しません。)

インストール方法を選択して、インストールを開始してください:

Monday, 24th October, 2011

Copyright © 2002 osCommerce : Harald Ponce de Leon

■ データベースの設定

ページ下部の「3. データベース・サーバに関する情報を入力してください:」に事前に用意した自分のデータベースの設定を入力します。

「データベース・サーバー」、「ユーザー名」、「パスワード」、「データベース」を入力し、「データベース・サーバー」にポート番号「3306」を入力してください。

■ 事前に用意したデータベース設定

※CMSの事前設定をご参照ください

データベース名	: g601025	(データベース)
ユーザー名	: g601025	(ユーザー名)
パスワード	: sABn2rxz	(パスワード)
ホスト名	: localhost	(データベース・サーバー[:3306])

3. データベース・サーバに関する情報を入力してください:

データベース・サーバ

 データベース・サーバは *db1.myserver.com* のようなホスト名や、*192.168.0.1* のような IP アドレスで指定することができます。

ユーザー名

 ユーザー名はデータベース・サーバーへの接続に使用されるアカウントです。例えば *mysql_10* など。

注意: 「カタログ・データベースのインポート」を上で選択している場合には、この接続アカウントには Create および Drop 権限が必要です。

パスワード

 パスワードはユーザー名とともにデータベース・ユーザーのアカウント情報として使用されます。

データベース

 カatalog・データを格納するデータベースの名前を指定します。例えば *catalog*

入力が終わったら、「Continue」をクリックして先に進みます。

「Continue」をクリックします。

osCommerce
オープンソース・Eコマース・ソリューション

新規インストール

Step 1: データベース・インポート

データベースへの接続テストが成功しました。

次のインストール・プロセスに進んで、データベースのインポート処理を実行してください。

この処理は決して中断しないでください。もし中断してしまうと、データベースの内容が壊れてしまいます。

インポートするファイルの置かれている場所と名
前: `/usr/home/g601025/html/oscommerce/catalog/install/oscommerce.sql`.

下図が表示されたなら、データベースの設定は完了です。

「Continue」をクリックして先に進みます。

osCommerce
オープンソース・Eコマース・ソリューション

新規インストール

Step 1: データベース・インポート

データベースのインポートに成功しました。

オプションの設定です。お好みの設定に変更できます。
お好みの設定ができたならば、「Continue」をクリックします。

注意: Create および Drop 権限は必要ありません。

パスワード

パスワードはユーザ名とともにデータベース・ユーザのアカウント情報として使用されます。

データベース

カタログ・データを格納するデータベースの名前を指定します。例えば *catalog*。

持続的な接続を使用する
持続的なデータベース接続を可能にします。共有サーバを使用している場合は、オフしてください。

セッション情報をファイルに保存する
 セッション情報をデータベースに保存する
PHPセッション情報の保存先を指定してください。

下図が表示されたら、インストールは完了です。

この段階でひとまず osCommerce の操作が可能になります。

「Administration Tool」をクリックして、ユーザ : **admin** / パスワード : **admin** で管理画面にログインしてください。

管理画面に初めてログインしたら必ずシステム管理者のパスワード変更を行ってください。

「基本設定」→「ユーザー」→「ユーザー管理」からシステム管理者のパスワードを変更できます。

■ インストール後の調整

無事インストールが終了したら、変更していたパーミッションを変更します。

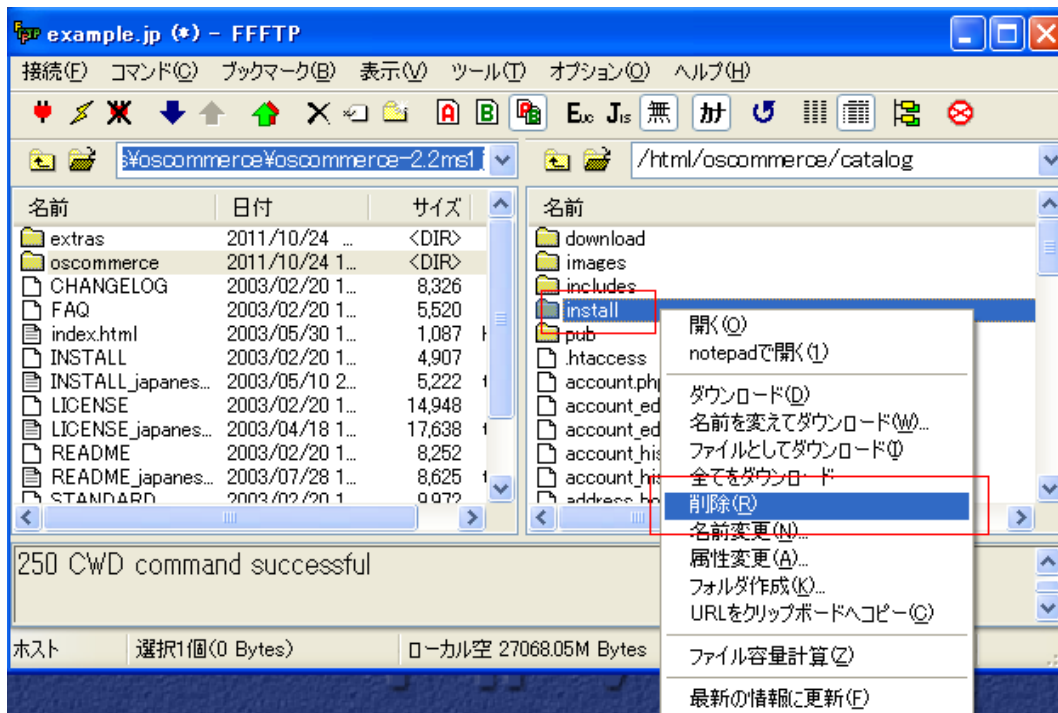
変更を行うファイルは「admin」と「catalog」の「includes」ディレクトリにある「configure.php」です。パーミッションを「444」に変更しましょう。

- ・ `./admin`
 - `includes`
 - `(444)configure.php`
- ・ `./catalog`
 - `includes`
 - `(444)configure.php`

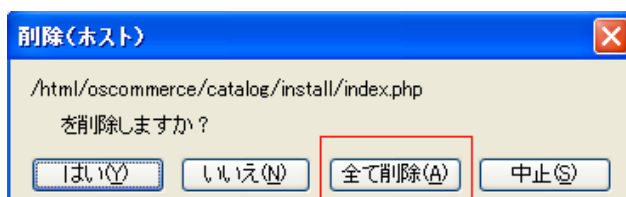
※「■ パーミッションの変更」の項を参考に現在の属性を変更してください。

パーミッションを元に戻したら、「install」ディレクトリを削除します。

FTPソフトを起動したら、右部に「/html」→「oscommerce」→「catalog」ディレクトリにある「install」ディレクトリを右クリックし、表示されたメニューから「削除」をクリックします。



「全て削除」をクリックしてください。



以上で、osCommerce のインストールは完了です。